

衛生士シンポジウム 「保護者のデンタルIQを上げるには」

座長 はしもと小児歯科医院（北九州市）

院長 橋本 敏昭

1. 一般的な方法について

小児歯科 柏木医院（福岡市）

岩男 好恵



略歴

昭和 58 年 福岡歯科大学付属歯科衛生士専門学校 卒業
(現 福岡医療短期大学)

昭和 58 年 小児歯科 柏木医院 勤務

平成 8 年 (社) 福岡県歯科衛生士会 理事

～現在 (社) 福岡県歯科衛生士会 常務理事

最近、テレビや雑誌等のメディアに、う蝕や歯周病の予防など歯科に関する情報が、以前より取り上げられるようになりました。保護者らも、このような新しい情報を敏感にキャッチしているようです。しかし、新しい情報を得ることで安心し、保健行動に至っていないように思います。その知識を生活習慣に取り入れ、家庭で予防管理を実施していくかは、保護者自身の行動をいかに変えるかに掛かっています。そのためには、マニュアル的に指導をするのではなく、行動変容を起こさせる保健指導が必要です。指導のポイントとしては、①小児の環境を把握し ②指導計画を立て ③以前の指導を振り返りながらステップアップしていく、ことが重要だと思います。

実際指導を行う場合には、指導を受ける側（保護者）と指導する側（歯科衛生士）が同じ問題点を共有し、ライフスタイルの中で改善しやすい点から行動変容を起こさせて行くように、アドバイスする事も大切だと考えます。また、スタッフ全員が来院者の情報を確認できるシステムを作ることにより、どのスタッフも同じような指導を行うことで保護者の戸惑いをなくし、信頼関係を築くことに繋がります。

今回は、当医院の保健指導の内容を、症例を交えながら紹介したいと思います。そして、保健指導の最終目的である、セルフケアの確立を目指して行けるようにみなさんと考えていきたいと思います。